

6・2上関原発反対 上関スタディーツアーに24人参加

道路脇に大看板「原発反対の方はこないで」（上関町）

小雨降る6月2日（日）、マイクロバス（定員25人）に24人が参加する「上関スタディーツアー」が行われた。目的は、上関原発反対運動を33年にわたって続けている祝島島民との交流と原発計画予定地の田ノ浦を観ることでした。参加者はかなりの方が初めてという。中には祝島に行きたかったがチャンスが無かったという声もあって、小雨ながら大成功でした。

新幹線口を定刻より少し前に出発したバスの中では、原発はいらない広島市民の会の木原省治さんが現地に着くまで上関原発の計画が持ち上がった33年前から今日までの経過や県の態度、上関町の選挙経過、そして万葉の歴史にふれて詳しく説明していただいた。上関町に入ると道路には「原発反対の方は来ないで」（写真右）の大看板が迎えてくれた。四代港から2隻の舟で祝島にわたり早速、島のレストラン「わた屋」で手作りの昼食をとった。舟をおりたところで頂いた初物のビワを頂いた。レストランの奥さんとの対話も弾み、ビワ茶、ひじきなどなど祝島産のお土産を買い求めていた。昼食後は三々五々島の見物をした。3人しかいないという小学校や万葉の句碑、練り堀の家並み等々を見学した。中には1時間もかけて棚田を見学する人もあった。小雨のためにレンタサイクルに乗れなかったのが島の反対側までは足を伸ばすことは叶わなかったのが残念でした。

午後3時、再び舟にのり祝島をあとにして、原発計画の予定地・田ノ浦で船上から木原さんの説明を受ける。対岸は削りとられた山肌が速くも青々と樹木が茂り、栈橋、気象観測所、作業所などが散見されたが、木原さん曰く、中電は工事関係のほとんどが撤去されているという。しかし警備の方がいるらしく「埋立地域に入るな」とスピーカーが鳴っていた。15分くらい滞留し帰路についた。帰りのバスの中では参加者全員が感想を述べ合っ

て無事、広島駅に帰着した。予約しながら当日アクシデントで参加できなかったお二人にはお気の毒でした。またチャンスをつくりましょう。また、子ども連れツアーの希望も出されました。利元克巳記

